

平成 31 年 2 月 12 日

浜田市教育委員会 様

浜田市立学校統合計画審議会
会 長 木 村 豪 成

浜田市立学校統合計画等について（答申）

浜田市教育委員会から諮問を受けた「小・中学校の適正規模及び適正配置」及び「小・中学校の建設計画の基本方針」について審議を重ねてきましたが、審議会としての成案をまとめましたので、別添のとおり答申します。

答 申 書

平成 31 年 2 月 12 日
浜田市立学校統合計画審議会

1 はじめに

全国的に少子化が進む中、浜田市においても児童生徒数の減少が続き、平成 39 年度（2027 年度）の児童生徒数は、平成 29 年度の 3,942 人から 380 人余りも減少し 3,558 人になるものと推計されており、それに伴い学校の小規模化も進んでいくこととなります。

また、学校施設の老朽化は進み、小・中学校 25 校のうち 10 校は、築 40 年を経過しており、長期的、計画的な整備、改修が必要であります。

そうした状況の中、当審議会では、浜田市教育委員会から

1 小・中学校の適正規模及び適正配置

(1) 小規模校のあり方

(2) 通学条件、学校施設の更新、地理的要因や地域事情等を踏まえた小・中学校の配置及び通学区域の見直し

2 小・中学校の建設計画の基本方針

について諮問を受け、学校施設の老朽化、劣化の著しい学校に視点を絞り、子どものためのより良い教育環境の提供という観点から、慎重に審議してきました。

2 審議に当たって

諮問を受けた項目を審議するに当たっては、次の点に留意しました。

- 1 学校が効果的な教育活動や学校運営を行い、子どもたちの人としての力を育むためには、日々の学習における確かな学力向上はもとより、集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などの力を育む必要があるとともに、運動会や文化祭などの学校行事、クラブ・部活動等においてもある程度の規模の集団を形成し、社会性や規範意識を身に付けていくことが必要であること。
- 2 小規模校においては、一人ひとりの子どもに目が行き届くなど小規模校なりの良さもあるが、子ども同士の交流の範囲が狭く、集団教育活動の機会も少ないなど、教育環境は決して良好とはいえないこと。また、教職員配置が少人数であるため学校経営上も厳しい状況であること。
- 3 厳しい財政状況は想定されているが、学校施設の老朽化が進んでおり、より良い教育環境を提供するためにも、長期的、計画的な整備が必要であること。

こうしたことを踏まえつつ、今回の 10 年間の計画としては、学校施設の老朽化対応を最優先とすべきとの方向性を持って重点的に審議をしました。

3 答申の内容

(1) 小・中学校の適正規模及び適正配置について

① 小規模校のあり方について

極少人数学級（複式学級）の解消を図ることが望ましいが、小規模校には小規模校の良さがあること、また、学校がなくなると地域が寂れるという地域の声があることも承知している。

浜田市内には、美川小学校、今福小学校、波佐小学校、弥栄小学校、岡見小学校の 5 校に複式学級があり、適正規模という点で課題はあるものの、波佐小学校、弥栄小学校、岡見小学校の 3 校は、校舎の耐用年数、通学条件の観点から、また、美川小学校、今福小学校の 2 校は、通学条件の観点から、当面は学校の存続が望ましい。

② 通学条件、学校施設の更新、地理的要因や地域事情等を踏まえた小・中学校の配置及び通学区域の見直しについて

学校施設の老朽化及び少人数の状況を参考に、次のとおり取りまとめた。

ア 雲雀丘小学校を廃校とし、原井小学校への統合を行い、これに伴う通学区域の変更を行うことが望ましい。

現状の施設は、建築後 62 年を経過し老朽化が著しい状況で、加えて、児童数は、各学年とも 10 人前後であり、原井町及び笠柄町のみ校区であること、また、未就学児の進学割合の過去の数値を見ると 3 割程度が他地域へ転居している地域であることから、今後の大幅な増員は考えにくい状況である。

イ 第四中学校を廃校とし、第三中学校への統合を行い、これに伴う通学区域の変更を行うことが望ましい。

現状の施設は、建築後 63 年を経過し老朽化が著しい状況で、加えて、生徒数は、各学年とも 10 人前後であり、美川地区における今後の大幅な増員は考えにくい状況である。また、生徒数や教員数も少人数であることから、学校教育や部活動の面において制限されることが多々ある状況である。

なお、通学区域については、中学校進学の際に、同一小学校の児童が分散する現状はあるものの、過去には、学校の統廃合や移転に伴う校区変更を行った経緯しかなく、学校の統廃合を行わない学校については、通学区域の変更は行わないことが望ましい。

(2) 小・中学校の建設計画の基本方針について

学校建設後 40 年を経過している 10 校のうち、雲雀丘小学校、第四中学校は、前記 (1) ②のとおり、統廃合とし、雲城小学校、今福小学校、金城中学校、弥栄中学校については、校舎の耐用年数が 10 年程度あり、地域性を考慮し、現状通りとすることが望ましい。

老朽化している石見小学校、美川小学校、また、耐用年数に到達していないものの劣化度の高い松原小学校、第二中学校の 4 校について審議を行った結果、次のとおり取りまとめました。

- ① 石見小学校については、浜田市の中心に位置する小学校であり、現地付近での建て替えを想定した建設をすることが望ましい。なお、代替地確保が困難な場合には、課題である学校の構造や進入路の問題等を解決した上での現地建て替えが望ましい。
- ② 美川小学校については、極少人数学級（複式学級）の解消が必要な小規模校であり、適正規模に課題はあるが、地域コミュニティの存続や発展の中核的な公的施設と位置付け、総合的に判断し、第四中学校の統廃合後の跡地を活用し、放課後児童クラブ等を含めた複合施設を想定した小学校を建設することが望ましい。
- ③ 松原小学校については、劣化度が高く、建て替えの必要はあるものの、現在の場所が校区の端にあること、また、学校建設や統廃合時には、原井小学校、石見小学校及び三階小学校校区の見直しの検討も必要となることから、次期計画時に検討することとする。
- ④ 第二中学校については、塩害の影響もあり劣化度が高いため、塩害対策も検討した上での現地建て替えが望ましい。

審議を行った 4 校のうち、建て替えとした 3 校の優先順位については、第 1 順位が石見小学校と美川小学校、第 3 順位が第二中学校と考える。

なお、第 1 順位とした石見小学校と美川小学校については、同時検討とし、それぞれの建設用地について、課題が解消した学校から建設する考え方で進めてもらいたい。

4 付帯意見

地域性等を考慮し、現状どおりとした小規模校については、これまで以上に少人数化することが想定されるため、将来的には極少人数学級（複式学級）の解消に努めて、教育環境を整えることが望ましく、今後の統廃合について、児童数の推移や保護者・地域の皆さんの意見も踏まえて、浜田市教育委員会での検討を進めてもらいたい。

5 終わりに

平成 29 年度及び平成 30 年度の 2 年間に、学校視察も含め 10 回にわたり審議し、今後の浜田市の学校の適正規模及び適正配置、学校の建設計画の基本方針を示すことができたのではないかと思います。

浜田市教育委員会におかれましては、この答申の趣旨に沿い、早期実現に向け努力されるよう要望します。